

事例紹介③

学校情報化優良校 高等学校での端末活用状況

■ 県立高梁高等学校

2 活用の実際

本校では、端末を活用した授業が日常的に行われています。ここでは、生徒が端末を活用している特徴的な事例を紹介します。

(1) 外国語 (英語)

端末を活用してマイクロディベートからエッセイライティングを行いました。まず、端末にワークシートを配信し、テーマに対する賛成・反対の意見をまとめ、マイクロディベートを行いました。メンバーの発言は各自でワークシートに入力しておき、マイクロディベート終了後、それを参考にしながらエッセイライティングを

行いました。英文は添削サイト (Depl Write) を活用し、各自で作文の添削を研究するとともに、テキスト読み上げサイト (Natural Reader) で音声化させ、次時の発表に向けてシャドーイングで反復練習をしました。

(2) 国語

古文の和歌を解釈させたり、論理的な文章における筆者の主張や論の展開を整理させたりする活動場面で、Jamboard を活用して理解を深める授業を行いました。まず、個人での考えをグループ内で共有し、さらにグループごとに考えをまとめて共有しました。生徒は、

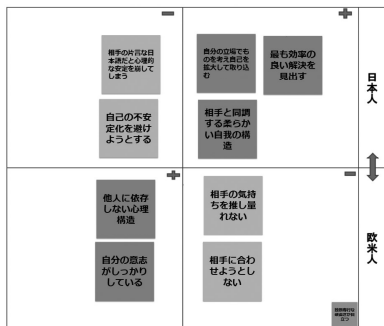
1 はじめに

本校は、令和元年から Google Workspace for Education を導入し、教育の情報化の推進に取り組んできました。令和3年度には日本教育工学協会により、高校では中四国地方初の「学校情報化優良校」に認定されました。同年度の入学生からは、1人1台端末 (Chromebook) を導入し、活用を進めています。



マイクロディベートの様子

3班



Jamboard による意見共有

3 おわりに

自立した学習者を育てるためにも、従来の一斉授業から脱却し、生徒が主体的に学びを進めていくパラダイムへシフトすることが求められます。そのためにも、教員の「アンラーン」が重要であり、従来の授業スタイルに固執することなく、1人1台端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて取り組んでいきたいと考えています。

(教頭 西村能昌)